

「野菜の生命力」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

植物の生命力には時々驚かされる。以前、ベランダの強風で折れた「オクラ」を、水にさしておくように指示したところ、数日後に根が出てきたということがあった。



「先生、見て見て！根がこんなに出了よ。…死んでなかったよ！」と見せに来てくれた男の子だ。



先日紹介した、八百屋さんで買ってきた「チンゲンナバナ」に花が咲いた話題。その後も水にさしたまま、そのまま観察を続けていた。驚いたことに、切り口から根がたくさん出ていた。養分も何もない水道水の中である。維管束の物理的な吸収(ポテンシャル)だけでなく、根を張って自発的に水分を吸収しようとする「意欲」を感じた。すごい生命力だ。



花もたくさん咲いた。つぼみがほとんど見えなかった株も、すべて花穂が立って「満開」になっている。



アブラナ科の植物は、一本の茎の下から咲いて、次々と上に向かって開花する。茎の先端は常に新しい花が咲いている状態で、茎の下部には古い花が残る。自然の状態では、古い花は果実になり、最終的には種子を形成する。



しかしさすがに、このチンゲンナバナは、室内の窓際に太陽光もあまり当たらず、液肥もまったく与えなかったもので、実は一つもできなかった。根が出るとわかっていたら、植木鉢に植え替えるか、液肥を与えただろう。今度はそれを試してみたい。